

柏の葉コミュニティハウソウ局 「K-Stream」

人の輪をつなぎ街に和を生みだす、市民のための放送局



地域に必要な情報を、地域住民自らが発信するコミュニティ放送局。新聞やテレビなどのマスメディアでは報じられない地域情報の提供や、災害時の細やかな情報発信などで注目され、全国各地に約250局が設立されています。一般的なコミュニティ放送では超短波(FM)電波を使ったラジオ放送が行われますが、柏の葉キャンパスシティのコミュニティ放送「K-Stream」は、インターネットを使った新しい形態。2011年7月に設立した、生まれたての放送局です。

柏の葉放送局、始動

「笑って、笑って!子育てスマイル」-2011年7月12日、「K-Stream」の初回放送は、元気なママたちによる子育て番組から始まりました。

K-Streamは、インターネットの動画配信サービス「USTREAM」を使用して生放送を行う放送局。録画番組も後日配信されるため、見逃しても後で見ることができます。近年普及が進むスマートフォンでも視聴でき、コミュニティ放送ではありながら、世界中どこでも視聴することができます。

街づくりセンター「柏の葉アーバンデザインセンター」に設置されたスタジオから、毎週火曜日の13時に定期放送を実施。子育て番組のほか、地域の取り組みをレポートする取材番組や、本の朗読を行う娯楽番組など、多彩な放送をしています。また、地域の定期市場「マルシェ

コロール」の開催時には特別放送を行うなど、イベントと連携した放送も行っています。

放送で広がる「わ」

K-Streamの理念は、放送を通じて人の輪をつなぎ、街に和を生みだすこと。代表を務める神田玲子さんは、「放送で伝えるものは単なる情報ではなく、街に住む人の思い。住民自らが思いを伝え、それを別の住民が受け止める。その連続によって、人と街に『わ』を広げる」ことが、放送局の目標だと言います。

参加メンバーは、現在33名。高校生から仕事をリタイアした高齢者まで、老若男女が幅広く集まり、「企画・編成」「技術」「広報・渉外」など役割を分担しながら、ボランティアで運営を行っています。

番組内容は、地域に役立つのであれば自由。現在は、イベント情報など地域のエンターテイメントを紹介する「エ

ンタメ班」と、地域で活動する人や団体、スポットに焦点をあてる「柏ヒト・モノ班」、そして子育ての情報を紹介する「子育て班」の3班に分かれて制作を行っています。

神田さんは、「番組は、住民自らが出演することに意味がある。顔の見える放送によって、顔の見える地域ができる」と、住民自らが発信者になることの意義を説明します。



インターネット放送の画面。高齢者など「USTREAM」になじみのない人に向け、視聴方法の講習会も検討している。

柏の葉コミュニティホウソウ局 「K-Stream」

放送の心得

不特定多数が視聴する放送を行うためには、一定の技術や倫理が必要です。立ち上げメンバーはカメラの使い方や効果的な取材の方法、放送禁止用語、著作権などの基礎を約一カ月間かけて集中的に学びました。

また、視聴エリアが限定されず、録画や複製の簡単なインターネット配信であるため、プライバシーの問題にも気を配る必要があります。地域に根差した顔の見える放送とプライバシー保護のバランスを取る方法として、番組出演者は本名ではなく、パーソナリティネームで出演するルールを設定しました。「うそつきかもめ」「PaPo」など出演者が名乗る個性的な呼び名は、親しみやすさを生む効果も。

目指せ！地域DJ100人

設立から約一カ月、当面の活動目標は参加者と視聴者の増加です。認知拡大に向け、8月には「子ども放送局」として一日



放送局体験では、カメラの操作にも挑戦。ズームも駆使して、気分はプロのカメラマン。

限定の体験イベントを実施しました。

6名の小学生と保護者が参加し、ニュース番組の放送にチャレンジ。発声練習や早口言葉でアナウンスを練習し、カメラや機材の使い方講習を行った後、カメラマンとアナウンサーに分かれて実際に生放送も体験しました。参加した小学4年生の大野風太君は、「世界中に配信されると聞くとプレッシャーもあったけど、多くの人に見てもらえるかもとワクワクした。今度は、見ている人から何かを募集するような番組をやりたい」と、早くも放送の持つ魅力に取りつかれた様子です。

代表の神田さんは、「番組を見て参加し



放送には番組出演だけではなく、機材を操作する楽しみも。技術やカメラに関心がある人も参加を。

たいと連絡をくれる人もいます。まずは地域DJ100人が目標です」と意気込みます。

できたばかりのK-Streamでは、参加者はもちろん、ロゴマークやイメージキャラクターのデザインも募集中心とのこと。過去の放送は、下記のWEBサイトで視聴可能です。

柏の葉コミュニティホウソウ局「K-Stream」の視聴は

[WEB] <http://www.ustream.tv/channel/kstreamudck>

柏の葉コミュニティホウソウ局「K-Stream」に関するお問い合わせは

[MAIL] kcvn.info@gmail.com

[ブログ] <http://ameblo.jp/k-stream-udck/>



神田 玲子氏
柏の葉コミュニティホウソウ局「K-Stream」代表

キーパーソン・トーク

2011年3月まで勤めた柏市の生涯学習推進員の仕事をはじめ、10年以上街づくりに関わってきました。生涯学習推進員は、近隣センター（公民館）で「子育て講座」や「高齢者講座」などコミュニティ講座を企画運営する仕事で、そこから多くの自主活動グループが誕生しています。

その仕事を通じて、ある特定の目的を持ったコミュニティを作ることは比較的簡単だけれど、世代や性別を超えて地域全体に広げることは、とても難しいと感じました。子育て中のママ、定年後の男性など同じ世代であったり、悩みを持っていたりする人は繋がりやすいですが、それだけでは交流の幅は広がりません。

その解決策として、コミュニティ放送に注目していました。きっかけは、札幌市のコミュニティ放送「三角山放送局」を立ち上げた木原くみこさんとの出会い、街づくりに関して放送がいかに役に立つのか、体験談を聞いたことでした。

放送の持つ利点は、大きく二点あります。一つは、放送という枠組みの中で何をやってもよいから、老若男女だれでも参加できること。趣味を生かした娯楽番組でもいいし、地域情報を伝える番組でも、自分たちのサークル活動を紹介する番組でもかまいません。二つ目は、交流が生まれることです。番組制作者と視聴者はもちろん、制作者同士、または制作者と取材対象者など、放送局を拠点として様々な交流が生まれます。

K-Streamはスタジオを駅前ロータリーの道路から見える場所に設置していますので、放送中の飛び入り参加も大歓迎。誰でも参加でき、交流が生まれやすいという特徴を生かせば、世代や性別を超えたコミュニティ作りに貢献できるはずですよ。

私たちは、放送局をあえて「ホウソウ局」とカタカナで表記しています。これは、従来の放送という枠に捉われない、自由な放送局を目指しているため。放送には無限の可能性があるから、具体的に何か伝えたいことがある人はもちろん、漠然と「何かしたい」という人にも、積極的に参加して欲しいです。

□編集後記□

参加メンバーのひとり「みかげ」さんは、学生時代放送部員でアナウンサー志望だったそう。K-Streamの合言葉は、「夢はいつでも叶う」。今後どのような夢を持った人が集まり、面白番組が出てくるのか。楽しみに視聴しています。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK